

論文審査の結果の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（保健学）	氏名	伊藤 夕賀子
学位授与の条件	学位規則第4条第1・2項該当		
論文題目			
西日本豪雨災害における子どもの食事と栄養：母親の困りごとに対する栄養士の支援活動の評価			
論文審査担当者			
主査	教授	森山 美知子	印
審査委員	教授	祖父江 育子	
審査委員	准教授	加古 まゆみ	
〔論文審査の結果の要旨〕			
<p>世界の多くの国で自然災害が発生し，過去30年間に20万人以上の人の命が奪われ，28億人以上の生活に支障をきたし，特に妊婦や子どもの健康に大きな影響が及んだとの報告がある。東日本大震災や熊本地震の調査報告では，多くの避難所で食料が不足した。その中でも乳児の食料不足が最も多く，食に関する情報不足やアレルギー対応食品が長期に渡って入手できなかったことなどが報告された。しかし，これまでの報告には子どもの成長発達段階に焦点を当てたものはなく，母親の災害時の困りごと（ニーズ）に対応した栄養士の支援活動も明らかにされていない。</p> <p>本研究では2018年西日本豪雨災害で被災した，成長発達段階が異なる子どもの母親に対して，それぞれの段階での食事と栄養についてどのような困りごとを抱えていたかを調査するとともに，被災地域の異なる職域に勤務する栄養士の支援活動の実態を明らかにすることで，栄養士らの災害時支援活動のあり方を検討した。</p> <p>2019年10月に，半構造化面接法による質的記述的研究を行った。母親グループの調査対象者は，西日本豪雨災害で被災した広島県内に居住する成長発達段階の異なる子どもの母親8名である。栄養士グループの調査対象者は，同じ被災地域内の異なる職域に勤務する栄養士7名とした。対象ごとにフォーカスグループインタビューを実施した。確証性を高めるため，逐語録について定量分析である共起ネットワーク分析を行った。</p> <p>質的分析の結果，母親の困りごとは，発災初期は，妊婦への【水や食料の支援】の不足，乳児の【哺乳瓶の消毒】，授乳婦の【主食中心の食事】，幼児の【アレルギー用食品の不足】，【発達障害児の食へのこだわり】，小・中学生の【食料の不足】の6項目が抽出された。中長期には，共通カテゴリーとして【断水時の食事づくり】【学校給食の中止】【道路遮断時の買い物】【アレルギー用食品不足の対応】の4項目が抽出された。栄養士の支援活動については，保健センターと給食センターの栄養士が語った【給食稼働の</p>			

準備】，保育所の栄養士らの【環境衛生を優先した初動活動】，特定非営利活動法人(NPO)の栄養士の【アレルギー用食品不足の対応】が抽出された。中長期には【JDA-DAT の出動準備】，NPO 栄養士の【アレルギー用食品不足の対応】と【栄養相談】，給食センターと保育所の栄養士の【給食の対応】，保健センターの栄養士と小学校栄養教諭の【災害時の食事に関する教育活動】，保育所と保健所の栄養士の【栄養士のための研修会の開催】による6項目のカテゴリーが抽出された。

共起ネットワーク分析の結果，発災初期の母親の困りごとは5事象が，中長期は6事象が，栄養士の発災初期の支援活動では8事象が，中長期は5事象が読み取れた。定性分析したカテゴリーと定量分析で示されたトピックを照合した結果，すべてのカテゴリーが定量分析によって支持された。特に，発災初期は母親の困りごとであるアレルギー用食品の不足に対し，栄養士の支援活動であるアレルギー用食品の不足の対応が一致した。中長期は，母親の困りごとである給食の中止に対し給食の対応が一致し，アレルギー用食品の不足に対しアレルギー用食品の不足対応が一致した。

発災初期から中長期にかけての母親の困りごとは，成長発達段階に関わらず水不足に起因する困りごとが最も多く，さらに，母親の困りごとに対する栄養士の支援活動は「アレルギー対応」と「給食の対応」であることが明らかになった。自治体のアレルギー用食品の備蓄率は20.9%と報告されており，今後は大規模災害に備えて，自治体の栄養士はアレルギー用食品の備蓄体制を充実させ，各職域の栄養士らとの連携体制構築に向けて取り組むことの重要性が示された。

以上の結果から，本論文は被災した母親の成長発達段階が異なる子どもの食事と栄養についてのニーズと，異なる職域に勤務する栄養士の実践をマッチングさせた複合的課題から，被災した母親のニーズと栄養士に求められる活動を明らかにしたことにおいて高く評価される。

よって審査委員会委員全員は，本論文が著者に博士（保健学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認めた。